

1日目 セッション概要-III

PS-1 プロジェクト営業の七つの誤解
9/4 13:10 プロジェクト営業の問題点とその対策

株式会社PMコンセプト
代表取締役社長 長尾 清一

【セッション概要】 「PMがプロジェクトの成否を左右する」という発想から、プロジェクト・マネジャーに対するPMスキルの強化が強く叫ばれている。だが、はたしてプロジェクト成否の決定要素はそれだけなのか。現場では、受注段階で既に「負け戦」の様相を呈しているプロジェクトが多いのが実態だ。プロジェクトの失敗率を最小限にするためには、受注段階でのリスクの見極めが決め手となる。本セミナーでは、プロジェクトの発掘、ニーズの確定、提案の各プロセスでのリスク分析の重要性、さらに営業職に対するPM教育のポイントを解説する。

【講演者略歴】 UCバークレー校ビジネススクール卒 MBA取得。15年間で大規模プロジェクトを指揮監督。93年よりPM専門の米国企業アジア総責任者として7ヶ国でPM研修を実施。93年にPMP®取得。97年(株)PMコンセプト設立。著書に「先制型プロジェクト・マネジメント」、「問題プロジェクトの火消し術」など。

PS-3 PM型MOT(技術経営)実践事例
9/4 15:35 ~新事業を創出するMOT人材育成~

株式会社アイさぼーと 取締役 研修・スクール事業本部長
松本 毅 (兼)大阪工業大学 客員教授 **C&P**

【セッション概要】 企業の価値を高めるためには、技術から如何にキャッシュフローを生み出すかが重要である。その為には、新事業開発の構想力や新製品・新技術の構想力を持つ研究者・技術者育成が大変肝要であり、「技術を戦略的にマネジメント出来る」戦略思考能力と「プロジェクトを成功に導くプロジェクトマネジメント型リーダーシップ」能力を高めることが重要である。(株)アイさぼーとでは、「MOTスクール」・「MOT研修」など実践的なMOT教育事業を全国で展開している。今回「MOT」実践事例と「MOT教育」の成果について紹介する。

【講演者略歴】 1981年大阪ガス入社。凍結粉砕機・薄膜型ガスセンサーの開発。技術系社員の採用・教育。2002年MOTスクール設立。2003年(株)アイさぼーと取締役に就任。2006年大阪工業大学客員教授に就任。経済産業省MOT評価・認定制度検討委員会委員。PMAJ関西普及委員会委員。

PS-2 「ストレスフリー指向開発」
9/4 14:15 品質確保とストレス軽減の両立

フェリカネットワークス株式会社 開発部 2課
統括課長 栗田 太郎

【セッション概要】 ソフトウェア開発業務においては、品質を確保するための取り組みとともに、責任に押しつぶされないプロジェクトやチームの運営について考えていく必要がある。本セッションでは、「おサイフケータイ」用ICチップファームウェアの開発プロジェクトにおける事例を交えながら、様々な工学や手法を組み合わせるにより多重開発構造を作り、安心・安全な、ソフトウェアの開発と、職場環境の構築を両立するための、「セーフティネットモデル」、「チームビルディング」、「ストレスフリー指向開発」などの考え方や取り組みについて紹介する。

【講演者略歴】 1971年生まれ。1996年から会社勤務、1999年からソニー株式会社。2004年よりフェリカネットワークス株式会社にてモバイルFeliCaの商用化および第2世代の開発に携わる。

PS-4 狩猟型プロジェクトマネジャーを育成する
9/4 16:40 心理学的視点とリーダー育成

アイシンク株式会社
代表取締役 & CEO 伊藤 健太郎

【セッション概要】 プロジェクトを成功できるプロジェクトマネジャーを育成するには、本人の意思だけでなく、実務での経験と適切なコーチングのサポート環境が必要である。しかし、現実にはリーダーシップスキルを磨く機会など組織が計画的に準備することは容易ではない。そこで、どのような視点と方法で結果を出せる(狩猟型と呼んでいます)プロジェクトマネジャーの育成を組織がサポートしていくのがいいのかを、心理学的視点、コーチング、シミュレーション型トレーニングなどの総合的な視点で考察していく。

【講演者略歴】 NKK(現JFE)で船舶用エンジンの製造、環境プラントのプロジェクトに従事後、PMに特化したサービスを提供するアイシンク株式会社設立。プロジェクト・マネジメント研修/コンサルティングを実施。著書に『プロマネはなぜチームを壊すのか』『プロジェクトはなぜ失敗するのか』等がある。

2日目 セッション概要-I

A-1 P2M標準プログラムマネジメントとPMI®標準
9/5 10:00 プログラムマネジメントとの相違と実用的な使い方

有限会社 経営組織研究所 代表取締役
PMAJ理事 渡辺 貢成 **P2M**

【セミナーの狙い】 P2M(Project & Program Management)が発表されて、それ以降PMI®標準のプログラムマネジメントが発行されました。残念ながら双方のスタンダードを知る人が少なく、どのような相違があるのかという質問を多く受けます。この相違をわかりやすく説明するのが本講座の狙いです。

【セミナーコンテンツ】 1. PMI®スタンダードとP2Mスタンダードによるプログラムマネジメントの相違を理解していただく、 2. それぞれの特徴を活かした使い方を学ぶ、 3. PMBOK®が実施しないP2Mにおける構想計画を理解していただく(ここが最も重要な点です)

【受講をお奨めする方】 PMP®, PMS、ITC取得者およびPMスタンダードに興味のある方

【講師略歴】 日揮(株)で石油、原子力プロジェクトのPM経験、日本有人宇宙システム(株)専務取締役(国際宇宙ステーション関連) JPMF初代事務局長、PM経験50年。現在 日本プロジェクトマネジメント協会理事、PMAJジャーナル、オンライン編集長、P2Mガイドブック改訂委員長で新版P2M標準ガイドブック改訂完了。著書:プロジェクトマネジャー自在氏の経験則、PM実践講座(芝 安曇書で出版)

B-1 感性コミュニケーション入門
9/5 10:00 潜在脳理解による組織力アップ講座

株式会社感性リサーチ 代表取締役
黒川 伊保子(日本感性工学会評議員)

私たちの脳は、脳の持ち主が知らない間に、97%もの認識を行っていると言われる。つまり、脳の持ち主が、意識して「感じている」「わかっている」と思っていることは、わずか3%に過ぎないということになる。潜在脳は、膨大な認識情報のうち、必要だと思われるものだけを顕在意識に伝えてくる。したがって、私たちが意識して知覚することは、既に潜在脳が取捨選別した結果であり、「ふと、目に留まった」と感じた商品も、既に潜在脳によって取捨選別されているのである。コミュニケーションにおいても同様と考えられる。

一方、脳には、潜在域にふと浮かぶ「脳の気分」があり、潜在脳を取捨選別は、この「脳の気分」にかなりの影響を受けている。このため、ヒトの「脳の気分」の傾向を知れば、市場の気持ちも、仲間や家族の気持ちも見通せることになる。脳の潜在域の出来事(感性)を知ることは、人生の達人になるコツでもあるのだ。本講では、(1)感性とは何か、(2)男女脳の違い、(3)感性トレンド(時代による大衆感性の違い)、(4)ことばの感性などの話題を中心に、違う脳の気分の持ち主たちが互いを敬愛しつつ共存するすべについて述べる。

【講師略歴】 1959年生れ。奈良女子大学理学部物理学科卒業後、(株)富士通ソーシアルサイエンスラボラトリーにて13年間勤務。人工知能エンジニアに。その後、民間の研究所を経て、脳科学の見地から「市場の気分」を読み解く感性アナリストに。2003年、(株)感性リサーチを設立。代表取締役に就任。2004年に発表した世界初の語感分析法が注目を浴び、感性研究の第一人者となる。日本感性工学会評議員、倉敷芸術科学大学非常勤講師。著書に「日本語はなぜ美しいのか」(集英社新書)、「恋愛脳」(新潮文庫)など 公式サイトhttp://www.ihoko.com/

A-2 PMBOK®ガイド第3版概説
9/5 13:45 PMBOK®ガイド第3版によるプロジェクトマネジメントの知識体系の解説

PMAJ研修第2部会 小林 守 **PMP**

【セミナーの狙い】 米国PMI®が発行するPMBOK®ガイド第3版は、『プロジェクトマネジメントの知識体系のうち、良い実績慣行と一般的に認められている部分を特定する』ことを目的としている。PMBOK®をベースにしたPMP®資格認定者が全世界266,146人、PMBOK®第3版 1,029,156冊、PMBOK®の出版総合計(1996年版、2000年版、第3版) 2,464,808冊(2008年3月末)となっている。PMBOK®は、業界を問わないプロジェクトマネジメントのデファクトスタンダードとして、広く認知されている。本講座では、PMBOK®ガイド第3版を概説し、受講者のプロジェクトマネジメントの実践に役立てていただくことを目的としている。

【セミナーコンテンツ】 PMBOK®フレームワーク、9つの知識エリア、5つのプロセス群、44のプロセス、およびPMP 試験仕様の解説

【受講をお奨めする方】 1. PMP®資格受験を目指す方、 2. PMBOK®ガイド第3版を知りたい方、 3. ITC、P2M資格取得者の方でPMBOK®の概要を知りたい方。

【講師略歴】 茨城日立情報サービス(株)品質保証部 部長・1976年、日立エンジニアリング(株)〈現(株)日立情報処理ソリューションズ〉入社、プロセス制御用コンピュータによるアプリケーションシステムの開発に従事。主に海外火力プラント用、製造業/流通業の製造からロジスティクス用の制御・情報処理システムの開発に従事、さらに物理的セキュリティの指針認証システムのSEを担当。2007年8月茨城日立情報サービス(株)に転職し、現在に至る。PMAJ研修第2部会会員、PMP®、技術士(総合技術監理、経営工学、情報工学)他

B-2 職業としてのプロジェクト
9/5 13:45 プロジェクト・マネジャーの要件、プロジェクトに向く人、向かない人

プラネット株式会社
代表取締役 中嶋 秀隆

【セミナーの狙い】 あなたはプロジェクトという仕事に向いているとお考えだろうか? そもそも、ある職業や役割に向いているとはどういうことか? 自分に向く職業や役割を見つけるプロセスや、向き不向きを判断する基準があるのか? あるとしたらそれはどんなものか? 良いリーダーに求められる条件とは? そして、良いプロジェクト・マネジャーに求められる条件とは? PMP®の要件の中心にある「インテグリティ」と、私のもうひとつの興味の対象である「運」に光を当てながら、こうしたポイントに一案を提示し、受講者のご批判を頂戴したい。

【セミナーコンテンツ】 1.枝分かれと剪定のプロセス 2.天職とは何か 3.リーダーの条件 4.プロジェクト・マネジャーの条件 5.プロジェクト——良い思い出ばかり

【受講をお奨めする方】 プロジェクトに関わる方々、自分の経歴を見直してみたい方々

【講師略歴】 国際基督教大学大学院修了。京セラ、インテルなどに約20年間勤務後、PMの研修・コンサルティングを展開。プラネット(株)代表取締役、スマートビジョン(株)会長、慶応大学非常勤講師。著書に『PMプロジェクト・マネジメント』日本能率協会マネジメントセンター、『実践!プロジェクト・マネジメント』(津曲公二氏と共著)PHP研究所、『死ぬまでに達成すべき25の目標』(中西全二氏と共著)PHP研究所、訳書に『世界一わかりやすいプロジェクト・マネジメント』(香月秀文氏と共著)など。

カフェ・ド・eシンポ	
9月4日(木) 9:15~17:45 2F 平安	
出展企業名	出展概要
日本プロジェクトマネジメント協会	PMAJが実施する講座、セミナー、出版物等のご案内および部会、SIG、研究会等の活動のご紹介とご参加案内。
株式会社ニルソフトウェア	「xDTS」を用いた、さまざまなプロジェクト情報を有効に活用するためのソリューションのご提供。
ゴール・システム・コンサルティング株式会社	CCPM通信教育講座、およびその他商品・サービス(コンサルティング、研修、セミナー等)の紹介。
公立大学 産業技術大学院大学	①大学院で取り組んでいるPM教育(PBLを中心として) ②本学の紹介 ③本学オープンインスティテュート事業の紹介。
株式会社ユーフィット	How To PMの「見える化」! よろず相談承ります。
アイシンク株式会社	PM研修やリーダーシップについて効果的な取り組み等のご紹介。
日揮情報システム株式会社	PJ管理システム、エンジニア・製造業向け「EPMソリューション」・IT業界向け「Smart-PMO」
株式会社スコラ・コンサルト	自律的なチームを育てるマネジメントをはじめとする、〈スコラ式〉企業風土改革コンサルティングのご紹介。
プラネット株式会社	PMグローバルスタンダードの手法をご紹介します。公開コースは、わが国最多の実績です。